

令和7年度 静岡南部特支・静岡視覚特支合同学校運営協議会 議事録

1 日時 令和7年11月6日（木） 午前9時30分から11時30分まで

2 場所 静岡南部特別支援学校 3階小会議室（全体）
家庭科室、小会議室（グループワーク）

3 参加者

（1）学校運営協議会委員

<静岡南部>地域コーディネーター、西豊田地区社会福祉協議会 企画運営委員長、NPO法人ひまわり副理事長、小鹿こども園園長、静岡済生会療育センター令和療育支援課主幹、西豊田小学校PTA副会長（視覚と兼務）、本校PTA会長
※欠席2名

<静岡視覚>静岡英和学院大学教授、曲金町内会民生委員、西豊田小学校PTA副会長（南部と兼務）、曲金六丁目自治会 自治会長、就労継続支援B型事業ワーク春日施設長、静岡視覚特別支援学校PTA会長

（2）学校側

<静岡南部>校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事・訪問主任、教務課長、保健安全課長、進路地域支援課長

<静岡視覚>校長、教頭、高等部主事、教務課長、防災担当、特別支援コーディネーター

4 内容

- ・校長挨拶（静岡視覚校長）
- ・自己紹介
- ・日程確認
- ・各校から取り組み報告・質疑応答
- ・グループ協議
- ・各グループからの報告
- ・校長挨拶（静岡南部校長）

5 議事録

（1）開会のあいさつ（静岡視覚校長）

・静岡視覚は今年で創立128年を迎える県内最長の歴史を持つ教育機関であり、4歳から60代までの幅広い年齢の児童生徒の教育をしている。来年度「するが視覚総合特別支援学校」として新体制へ移行する。視覚障害に加え、知的障害の高等部も併設する総合的な特別

支援学校となる。現在進行中の新校舎建設に触れると共に、地域の協力と意見を取り入れながら、新設校が地域に根ざし、より良い支援を提供できるようよろしくお願ひします。

(2) 静岡南部特別支援学校の取り組み

- ・防災（安全安心）：本校は医療福祉センター令和や静岡視覚支援学校と隣接または同じ建物で生活しており、有事の際の連携が必須である。8月にはセンターと合同で連絡体制確認、防災物品（発電機の稼働や非常用トイレの設営）の確認を実際に行つた。
- ・11月8日にはセンター令和と合同で「なんぶっこハレ☆ばれカーニバル」を開催予定。校務の効率化として、生成AIの活用（アイデア創出や議事録作成のため）を進めている。
- ・学校だよりを年4回地域に配布。近隣施設（JA南部図書館など）で作品展示を実施。Instagram風に活動の様子を掲示板にて発信し、QRコードなどで地域の方からの感想や意見を回収している。
- ・地域の方やひまわり事業団の方とボッチャ交流を年5回実施。小鹿苑カフェで高齢者との交流を実施。

(3) 静岡視覚特別支援学校の取り組み

○防災

- ・平常時は、視覚障害のある児童生徒が自分で行動できるように、右側通行の徹底やハンドマーク（手で触って位置を確認できるもの）の設置などを行っている。
- ・災害時は、障害物がある中で移動が困難になるため、介助者（応援要員）の配置が必要となる。
- ・体験を中心とした防災学習（防災食体験、スマートハウス体験、避難所生活体験など）を重点的に行っている。
- ・寄宿舎では、夜間は宿直する職員が二人になる状況もあるため、ソーラー照明の設置や独自の危機管理マニュアルを作成し、夜間の防災訓練を実施している。

○交流学習と地域連携

- ・近隣の西豊田小学校との三校交流や、居住地区の小学校での交流及び共同学習を実施しており、生徒の社会性や多様な意見に触れる機会を提供している。
- ・地域資源を活用した活動として、曲金地区の郵便局への手紙投函や、バス停の場所を確認する活動、白杖を使用した歩行訓練を実施し、安全な社会参加を目指している。
- ・高等部保健理療科（あん摩マッサージ指圧師養成）では、卒業に向けた実践的な技術習得のため、近隣住民を対象とした臨床実習（火・木曜午前）を行っている。

○新校「するが視覚総合特別支援学校」の概要

- ・県内で初めて複数の障害種の児童生徒が共に学ぶ学校として、視覚障害教育の伝統を継承しつつ、知的障害の指導・充実を図り、地域と共に活気あふれる学校になるようにという願いが込められている。
- ・知的障害特別支援学校の人数が増え、狭隘化の解消と、児童生徒の通学負担の軽減も目的である。
- ・教育目標「共に輝き未来に向かって心豊かに成長する」

- ・共生社会の実現に寄与する特別支援学校を目指し、新しい地域コミュニティとして発展していく。この併置モデルは、大学や企業などの組織が障害のある方を受け入れる際の参考になると期待されている。
- ・従来の静岡視覚特別支援学校の場所に新校舎を建設し、一部を改修する形で整備中である。

(4) グループ協議および全体意見交換

○防災・地域連携

- ・地域住民との合同避難訓練を実施し、繋がりを深めることが重要である。
- ・新校の施設、特に寄宿舎やスマートハウスを地域の防災訓練で活用し、災害時の工夫を共有するといい。
- ・新校でも、これまで通り福祉避難所および一時避難所としての機能を持つ予定であり、引き続き地域との連携を進める。
- ・学校をオープンにし、空いている教室でカルチャースクールを行うなどして、地域住民が学校に実際に出入りする機会を作るといい。
- ・地域への情報発信（学校だより、回覧板、SNS）を強化し、知的障害のある生徒を含めた障害理解を深めることが大切である。
- ・高校生の自転車が多く危険であるため、安全のアピール（点字ブロック整備など）を強化するといい。
- ・組織の活性化（職員）として、心理的安全性（相手の意見を否定しない）を確保し、活発な意見交換ができる職場環境づくりが重要である。できることは積極的に外注するなど、教員の負担を軽減する工夫も必要。

6 閉会（静岡南部特別支援学校 校長）

- ・短い時間ながら活発な意見交換が行われ、学校側だけでは得られない保護者、地域、福祉の関係者からの多様なアイデアが得られたことに感謝します。
- ・来年度の新校スタート、および南部特別支援学校のフロアが空くことによるスペース活用について、地域の方を呼ぶための具体的な計画を学校内で検討していく。

